

聖人滅後六百五十年の今日に於て旭の昇るが如き勢をもつて益々その精神を發揮し來り時代の進化と共に彌々社會より歡迎を受けその向ふ所滔々として流れ今や聖日蓮の偉なる人格は廣遠にして且つ玄妙なる教義に乗じて世界到る處に君臨せんとするに到りしは一に彼の献身的奮闘と犠牲的努力との然らしむる所である。

吾人等はいかゝる堅忍不拔の勇者の末輩である。『日蓮が弟子等は臆病にては叶ふべからず』佛法を學し謗法の者をせめずして徒らに遊戲雜談のみして明し暮さんは法師の衣を着けたる畜生なり』と訓誡叱咤され三陣續けよかしと我等弟子等を策勵されたる御聖訓を體得して大いに現代社會の惡思潮と戰ひ日蓮主義の顯揚に盡力せん。

## 聖訓

鏡に向つて禮拜をなす時、浮べる影、又た我を禮拜するなり。(御義口傳)

信心の血脈なくんば、法華經を持つことも無益なりと。(生死一大事血脈鈔)

藏の財よりも身の寶勝れたり、身の寶より心の寶第一なり。(峽峻天皇御書)

一語をなめて大海のしほをしり、一華ををして春をすいせよ。(開目鈔)

俗間の經書治世語言資生の業等を説かんと、皆正法に順せん。(一代大意鈔)

師々王の如くなる心をもてる者、必ず佛になるべし、例せば日蓮が如し。(佐渡御書)